

創造活動事業（教育支援センター〔適応指導教室〕）（庄内・千里）

1 活動の概要

（1）活動のねらい

不登校等の児童生徒を対象に、学校復帰し自立できることを目的とし、個々の児童生徒の興味・関心を行動に移し、自らが活動する過程で成長がはかれるように、必要な援助を組織的・継続的に行うことをねらいとする。

（2）活動内容

- 1) 不登校等の児童生徒に関する、保護者や教職員への相談援助活動
- 2) 学生カウンセラーによる、不登校児童生徒の家庭訪問を主とした訪問援助活動
- 3) 多様なプログラムを設け、児童生徒の興味関心を行動に移し、心の充足や体験の積み上げにより、成長をはかる自主創造活動
- 4) 不登校児童生徒に関する、学校や関係機関との連絡調整
- 5) 長期欠席児童生徒に関する、調査研究

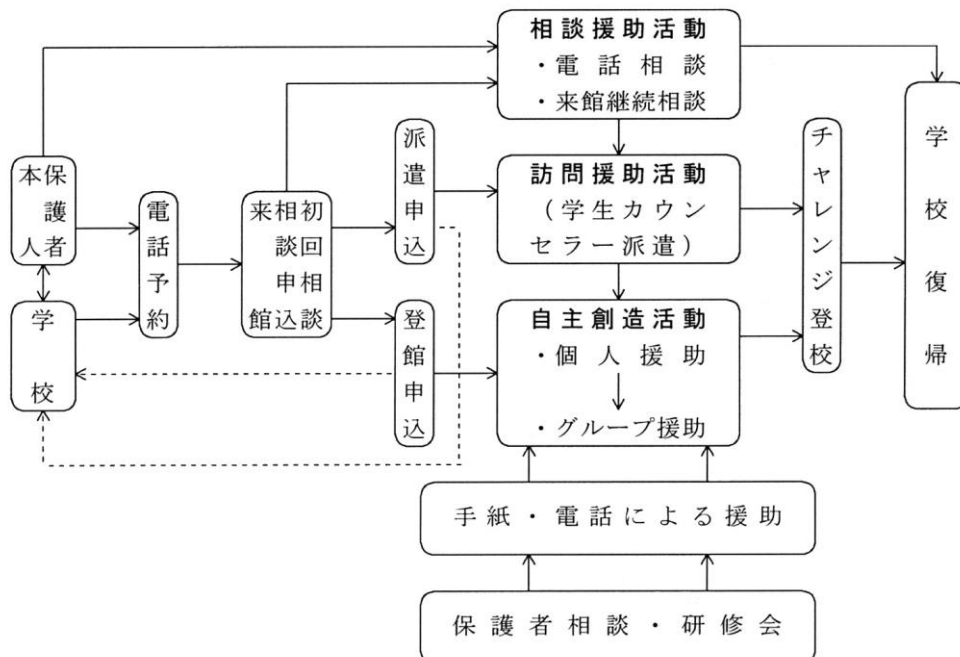
（3）活動時間（週単位）

- 1) 相談援助活動＝庄内館：火曜日～日曜日（9時～17時） *教職員の相談 随時
- 2) 訪問援助活動＝年間をとおして随時
- 3) 自主創造活動＝火・木曜日（10時～12時）水・金曜日（10時～15時）
（ただし、庄内館は土曜日（10時～15時）も活動あり）
- 4) 連絡調整＝年間をとおして随時
- 5) 調査研究＝年間をとおして随時

（4）対 象

不登校等状態にあり、学校だけで状態の改善を図ることが難しい市内在住の小中学生とする。

（5）活動の形態



2 活動状況

不登校等の問題に対応する指導援助を一層拡充するため、平成 14 年度(2002 年度)より庄内少年文化館・千里少年文化館の 2 館体制で取り組んでいる。今年度は庄内少年文化館で個人・グループ援助、千里少年文化館で個人援助を行った。

創造活動のねらいである「児童生徒一人一人の個に応じた成長」を促すとともに、体験活動をとおして社会的に自立できる力(生活の自立・集団への適応)を育てるために、次の事項に取り組んだ。

- ・個に応じた指導援助
- ・全体プログラムの多様化
- ・館外活動の内容の充実
- ・宿泊体験活動(日帰り体験活動)
- ・学校との緊密な連携
- ・児童生徒の状況に応じた学校復帰
- ・保護者への啓発活動
- ・保護者、教職員との継続相談
- ・ケース検討会とケース報告会の実施
- ・「寄り添い型学習」との連携

(1) 相談援助活動

不登校等の態様や要因が多様化している現状を踏まえ、相談援助活動を一層重視して取り組んだ。

- 1) 初回面接相談…市内在住の小中学生の保護者や小中学校の依頼により面接相談を実施した。
- 2) 受け入れ…保護者面接を行い、本人の意向を踏まえ、児童生徒の状況に適した対応を検討(受理会議)し、週あたりの登館回数・援助の形態など受け入れ方法を決めた。
- 3) 継続相談…児童生徒が、ただちに登館しての活動や訪問援助に応じられない場合は、保護者との継続相談により援助方法の検討等を行なった。

(2) 訪問援助活動(学生カウンセラー)

学生カウンセラーの活動は、家庭訪問をして、児童生徒の遊び相手や、話し相手になり、心のふれあいを深める中で、安定した人間関係が構築できるように援助を行うことである。家庭の都合や児童生徒が家以外の場所での活動が可能な場合には、活動場所が少年文化館になることもあった。

学生カウンセラーは、学業などの都合を考慮しながら、まずは、週 1 回来館して児童生徒の自主創造活動に参加し、児童生徒たちとの関係づくりを経験した後、保護者や本人の訪問要請に応じて、順次家庭訪問援助に移行した。

訪問援助活動の学生カウンセラーの派遣状況

開始月	7月	8月	10月	12月	2月	合計
派遣人数	1人	1人	1人	1人	1人	5人
対象児童生徒	小2男	中1男	小4女	中1女	小2男	

* 今年度小学校部分登校支援で 39 人の児童を支援した。

定期的に、学生カウンセラー研修会を実施し、教育現場・相談機関・医療機関等の講師や創造活動担当職員が指導した。また、学生カウンセラー相互の活動報告をとおして、不登校等の児童生徒に対する理解を深めるとともに、援助活動がより有効なものとなるよう努めた。

学生カウンセラー研修会実施一覧

月 日	内 容	講 師 ・ 報 告 者	学生 参加者数 (人)
6/6(土)	委嘱状交付/活動の概要について 子どもの心の理解と対応について	豊中市立少年文化館職員 豊中市立少年文化館アドバイザー ／臨床心理士・公認心理師	4
9/12(土)	専門機関からの報告並びに 情報交換会①	こども心身医療研究所 臨床心理士	4
10/10(土)	教育講演会（保護者講演会を含む） 不登校を考える～虐待・いじめ の現場から～	大阪府教育委員会スクールロイヤ ー事業スーパーバイザー	2
1/16(土)	子ども理解のためのワーク ショップ	豊中市立少年文化館アドバイザー ／臨床心理士・公認心理師	3
3/6(土)	情報交換会②	豊中市立少年文化館職員 豊中市立少年文化館アドバイザー ／臨床心理士・公認心理師	4

(3) 自主創造活動（登館援助活動）

個々の児童生徒の不登校状況を分析し、時間・空間・仲間の三間を準備する中で、個々の児童生徒の興味関心を行動に移し、自らが進んで活動できるように援助を行った。

- 1) 個人援助…登館当初やグループになじみにくい児童生徒については、スタッフとの1対1の個人援助から始め、徐々に信頼関係を深めながら、本人の状況を見計らってグループによる全体プログラム活動に移行した。
- 2) 自主プログラム…興味関心のある活動を自分で計画し、スタッフと相談の上実行した。（テスト受験、学校課題の制作など）
- 3) 全体プログラム…実体験や仲間とともに活動する事を目標にしたプログラムを設定した。P36に示す専門の指導員がプログラムを担当し、スタッフや学生カウンセラーも加わりともに活動した。

<庄内少年文化館>

朝の集い	<p>毎朝 10 時までにはプログラム活動に入る児童生徒が一室に集まり、週の予定と振り返りを書いた。この作業を習慣化することで、生活習慣への意識がついた。また、雑談をする、スタッフや指導員、学生カウンセラーとカードゲームなどを楽しむなど、よいコミュニケーションの場にもなった。時には、学校の先生との出会いの場、スタッフと活動の振り返りをする場としても活用することができた。活動をする前のウォーミングアップとしてよい時間となった。</p>
一週間の振り返り	<p>その週に初めて登館した日には、一週間の自分の生活を確かめる意味で、活動記録に予定を書き込んだ。すでに過ぎた日については実際に家庭や学校でしたことを記入した。また、スタッフとともに登校や登館のプランニングをすることもでき、一週間の動きを児童生徒や保護者、スタッフ、学校が視覚的に共有することに役立った。2～3日前のことや起床、就寝時間を思い出せない場合もあるが、一週間を見通す時間を持つことで日々の生活や基本的な生活習慣の意識づけにつながりよかった。</p>
リズムで遊ぼう	<p>ボーカロイド曲や話題の曲など、児童生徒たちの身近にある曲を使って、親しみやすい活動をおこなった。木琴や鉄琴、キーボードやドラムなど各々が弾きたい楽器を選び、ゆったりした時間の中でそれぞれのペースで演奏した。会話も楽しみながら和やかに活動し、最後にはみんなで音を合わせ、セッションした。</p>
クッキング	<p>小学生 2 人中学生 3 人合わせて 5 人が参加。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自分の食事は自分で調理するスタイルを取った。調理器具は主に電子レンジを使用。会食中の会話は控え、食後の片付けは自分の食器を洗うに留め、拭くのは職員がした。参加人数が少ないぶん児童生徒が食べにくい食材に配慮したメニューを考えてもらった。回数を重ねるにつれ、早く調理を終えた児童生徒がまだの児童生徒に教える場面も見られた。</p>
生活を学ぼう	<p>農園作業では、まず雑草抜きから始め、トマトやキュウリ、ナス、ピーマンの夏野菜の植え付けから収穫までを体験した。また竹や小枝、藁を使った手作りの季節飾りやおもちゃ作り、身近にある材料を使い伝承おもちゃを作ってみんなでの遊びを楽しんだ。</p>
つくってみよう	<p>小学生は最初に紙粘土を使って箸置きを作り慣れてから陶芸にチャレンジした。皿・マグカップ・湯呑み・バラの花・コーヒーカップなど一年を通していろいろな陶芸作品を作った。また、石ころアート（文鎮）・ポップアップカード・干支のゴムはんこ・切り絵アート・ハンドアート・ふわふわスライムなどを作った。土に触れ形にとらわれることなく自由に作ることの楽しさを感じていた。中学生は折染めをした和紙を使ってのマイうちわを作った。陶芸ではカップや茶碗・湯呑みなどを作り、3 学期には小皿の共同制作をした。難しい作業にも集中して取り組み達成感を味わった。児童生徒同士が助け合い、会話をしながら仲間との活動を十分に楽しんだ。</p>
体を動かそう	<p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、距離をとるよう活動を工夫して行った。ウォーミングアップでフラフープ、バランスボール、バランスディスクを使ったストレッチや筋トレをし、楽しみながら体幹を刺激することができた。後半は、ゲートボールや卓球、オリンピック近代 3 種、セパタクローやボッチャなどの海外の種目を真似たオリジナル競技も取り入れた。</p> <p>館外では豊島体育館や庄内体育館を使用し、広いスペースでフットサル、トランポリン、バスケットボール、ショートテニス、フライングディスク、バドミントンなどをした。苦手な種目があっても、自分で工夫しながら参加することができていた。体を動かし気持ち良く汗を流して、児童生徒同士声を掛け合う姿が見られた。</p>

やすらぎタイム	<p>今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、7月からのスタートとなった。7月最初の2回は、関係づくりのためのプレイタイムを設け、ゲームなどのレクリエーション活動をおこなった。SSTのワークは年間6回実施した。守られた空間の中で、自分を表現したり、自分を見つめたりする時間を重ねていくことで、自分の気持ち、自分の考えを表現することができるようになっていった。乗馬体験も年間6回実施した。3学期末には、お世話になった指導員の先生方と学生カウンセラーにプレゼントするデコパージュ石けん、メッセージカードを協力して作った。</p>
茶道	<p>年間5回の活動。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、で9月からのスタートとなった。感染防止対策として、すべての道具を共有せず、アルコール消毒も徹底した。盆点前のみで自服を基本とし、部屋の入り方やお辞儀の仕方、袱紗さばきも教わった。後半の活動では人数が増え、密を避けるため3人ずつお点前することもあったが、普段できない貴重な時間を過ごすことができた。</p>
学習	<p>(小学生) 児童生徒の興味のある話をしてから、個に応じて学習を行った。持参した学習プリントを中心に漢字や算数に取り組んだ。また、好きなものを英語で訳したり、キャラクター名を英文字で表現したりした。体を動かすことが好きな児童生徒には、多目的ホールで身体を動かした。休憩時間は、カードゲームを楽しみ、バランスボールで遊んだ。学習と休憩を切り替えてメリハリのある取り組みができた。</p> <p>(中学生) 火曜日と水曜日、毎週木曜日に学習に取り組んだ。水曜日の学習では、ビートルズの『Let It Be』など洋楽歌詞の聞き取り、英単語の神経衰弱カードゲームをした。火曜日、木曜日の学習では、少年文化館にある教材を利用したり、自身が持参した教材を中心に学習したり、各自の進度にあわせて進めていった。休憩時間はカードゲームや卓球でリフレッシュした。とても落ち着いて活動に取り組むことができた。</p>
フリープラン	<p>中学3年生メンバーが入試に向けて自分たちで「学習」に取り組み、「映画鑑賞」も2回実施した。ともに学び、感動する時間を過ごすことができた。また、スタッフとグループ面談をする中で受験生としての不安や悩みを語り、互いにアドバイスをするなどして励まし合った。進路に向けて仲間と取り組む時間、自分を見つめ、これからのことを考える時間となった。</p>
アレンジメント フラワー	<p>各学期に1回の年3回、フラワーアレンジメントを行った。卵パックと紙ナプキン、新聞紙や色画用紙で花器を作った。今年度は農園で育てた花を自分で選んで摘み活けた。写真撮影の際、花器の敷物にもこだわりそれぞれの個性が光った。自分の誕生花と花言葉を教えてもらって自分のことを知るよい機会にもなった。家に持ち帰って親族にプレゼントする子や家族で花をめで癒される時間を持つことができた。</p>

自主創造活動プログラム

<庄内少年文化館>

時刻	曜日		火	水	木	金	土	
時刻	活動内容		火	水	木	金	土	
9:30	プログラム		朝の集い	朝の集い	朝の集い	朝の集い		
10:00	午前の部	全体プログラム	1週間のプラン作り リズムで遊ぼう (第1・3・5) 学習 (第2・4)	1週間のプラン作り クッキング (第1・3・5) 生活を学ぼう (第2・4)	1週間のプラン作り (小)つくってみよう (中)学習	1週間のプラン作り 体を動かそう (含館外体育) 館外活動	個人援助	
		自主プログラム	興味関心のある活動を、自分で計画して実行する。					
		個人援助	来館後、日の浅い場合やグループに入れない場合、個人的に援助する。					
12:00			H・R	(H・R) 昼食	(H・R) 昼食	(H・R) 昼食		
13:00	午後の部	全体プログラム	/	(小)学習 (中)つくってみよう (第1・3) (中)学習 (第2・4) フラワーアレンジメント (第5)	フリープラン	やすらぎタイム ・フリートーク ・茶道 ・館外活動 (含乗馬センター) ・マイプラン ・奉仕活動 ・SST (ソーシャルスキルトレーニング)	個人援助	
		自主プログラム	興味関心のある活動を、自分で計画して実行する。					
		個人援助	来館後、日の浅い場合やグループに入れない場合、個人的に援助する。					
15:00				H・R		H・R		

<千里少年文化館>

時刻	曜日		火	水	木	金
時刻	活動内容		火	水	木	金
10:00	午前の部	個人援助	個人援助	個人援助	個人援助	個人援助
12:00						
13:00	午後の部	個人援助	個人援助	個人援助	個人援助	個人援助
15:00						

創造活動指導員連絡会実施一覧

月/日	案 件	協 議 内 容	参加者数
6/4	創造活動の指導方針について	指導依頼および児童生徒を指導するにあたっての共通認識	11人
10/13	指導の現状・交流	2学期状況報告と情報交換	9人
3/9	令和2年度の反省	指導内容の反省と次年度の課題など	9人

4) 館外活動

体験学習を含む社会見学や宿泊体験・冬山ハイキングなどを通じて楽しく遊び、語り合い、美しいものに感動するような社会的体験をめざすことを目的としている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が発令されたため6月5日、1月15日の館外活動は中止になった。密を避けて公共交通機関を使用せず公用車を利用し、山散策などを実施した。

日帰り体験活動では、自分の役割を意識し、他者との語り合いをおして人間関係の結び方を学び、仲間同士やスタッフとの信頼関係を一層深めることができた。それは仲間とともに過ごす楽しさを十分味わえただけでなく、自主性を養うよい機会でもあった。自ら体を動かす充実感、自然に親しみ物事に感動できる心のゆとり、人間関係の結び方などを学ぶ館外活動や体験活動となるよう、これからもめざしていきたい。

館外活動実施一覧

月	日	曜	行 き 先	人数	内 容
6	5	金	緊急事態宣言発令のため中止		
9	11	金	箕面の滝	5人	体験・散策
10	2	金	池田市立五月山公園・池田城跡公園	9人	体験・見学
11	6	金	交流会（庄内少年文化館）	9人	交流
11	13	金	豊中市立少年自然の家わっぱる	8人	体験
1	15	金	緊急事態宣言発令のため中止		

〔1〕 日帰り体験活動の取組み（豊中市立少年自然の家わっぱる） 参加者数 8人

11月13日（金）例年、兵庫県神戸市立自然の家に1泊2日の宿泊体験活動を行っていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日帰り体験のみの活動になった。

朝起きるリズムが不安定な子どもも、野外での炊飯や自然の中でのオリエンテーリングを体験してみたいと、当日に合わせて体調を整え参加することができた。

わっぱる自然の家に到着後、全員で協力しながら荷物を運び、炊事場で施設スタッフの説明を聞いた後、野外炊飯を始めた。薪班と食材班に分かれ、皆、てきぱきと野菜を切り、煙と戦いながら協力してやきそばを作った。みんなで作ったやきそばがこんなにおいしいと思わなかったと感動していた。片づけでは、冷たい水で鉄板についたすすがきれいにとれるまで磨き、炭の始末もすすだらけになりながら、全員一生懸命動いていた。関所ハイキングでは、スタート地点までの登り道を「もう疲れた、歩けない」と、日頃運動不足の児童生徒たちを「ゆっくり行こう、もうちょっとだよ」と上学年の児童生徒たちが声かけ合いながら登った。2グループに分かれ、それぞれのチーム名をつけ、5か所の関所の課題をクリアしながら、仲間意識も高まっていた。

自然を感じながら、仲間と一緒に過ごす楽しさや良さを味わい児童生徒たちは元気や自信をつけて帰ってきた。

〔2〕 動物とふれあう活動の取組み

服部緑地乗馬センターにて、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止による学校休業の影響で年4回の乗馬体験活動を実施した。参加者数は延べ21人となった。はじめは大きな馬を前にして緊張した表情だった児童生徒も、乗馬センターの職員の方々が馬に関する話を丁寧にわかりやすくしてくださったことで、馬への興味も深まり、表情が徐々に和らいでいった。実際に馬に触れてみたり、人参をあげてみたりと直接馬と交流でき、回数を経るにしたがって、乗馬体験を楽しみにする児童生徒も多くなった。馬に乗ることは、児童生徒たちにとって、日常では味わえない大きな魅力ある体験となった。参加回数に応じて、少しずつレベルアップしていただいたこともありがたかった。館内での活動では「順番を待つ」という機会はあまりないが、乗馬体験では自分の番が回ってくるまで、他の児童生徒たちが馬に乗るのを励ましたり、周囲の馬の動きに興味を示したりしながら、自分の番が回ってくるのを待つ機会が持てた。また、馬のやさしい瞳や豊かなしぐさ、そっとふれてみたときのやさしいぬくもりは、心のやすらぎを与えてくれたようだ。2月の最終回では、当日の参加者でスタッフの方にお礼の手紙とことばで、今年度の乗馬体験活動を締めくくった。

令和2年度（2020年度）乗馬センター参加者 登校率

	参加人数	復帰人数	部分登校人数	登校率
計	7人	0人	7人	100.0%

5) 特別プログラム
 <庄内少年文化館>

ほっこりホームデー	今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
始まりの会・終わりの会	<p>学期ごとに児童生徒の気持ちの節目として、学校の始まる始業式、終業式より早い時期に、始まりの会、終わりの会を行った。</p> <p>2学期の始まりの会では、児童生徒たちそれぞれの夏休みの振り返りや目標を作文に書き、久々に会う仲間とレクリエーションをして和んだ。3学期の始まりの会では、今年の抱負や目標、好きな言葉を『書き初め』にして、学期をスタートしていくための心と体の準備を確認し合った。</p> <p>各学期の終わりの会ではその学期の活動や生活を作文で振り返った。レクリエーションでは、密を避けて館内オリエンテーリングをしたり、チームに分かれて「紙を返して、返して」や「新聞はりつけダッシュリレー」など、楽しく交流して仲間意識が高まった。少年文化館終了後の登校や長期休暇の過ごし方について、自分と向き合う機会になった。</p>
こども園体験活動	今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
茶話会	<p>今年度は活動日が違う児童生徒との交流のできた茶話会となった。活動をともにした仲間たちとともにカードゲームや終了式の準備をして楽しい時間を過ごした。</p> <p>当日、バス、自転車、徒歩と自力での登館と公用車登館することができた。始まりの挨拶をしてから自己紹介した後、作文、終了式に渡すプレゼントのラッピング、終了式の準備、飾り作りに分かれ作業をしてくれた。児童生徒たちが自主的に動き、思い思いに壁面装飾をしていた。その間、活動の振り返り作文をもとに一年のまとめや次のステップについてスタッフと話し合った。その後、多目的ホールへ移動し、2グループに分かれて会話を楽しみながらカードゲームをした。互いに思いやり大笑いして楽しんだ。お楽しみ時間では、大人数での飲食ができないのでお菓子を配り談話した。少年文化館で過ごした日々を思い、感慨にふける児童生徒もいた。少年文化館の活動をとおして、時間と空間を共有し“人とつながる”喜びや温かさ、心地よさを感じ、安心できる居場所となったようだ。皆の気持ちが通じあい、温かく楽しい貴重な時間が過ごせた。</p>
終了式	<p>3月5日（金）10時より行った。仲間や支えてくれた人々総勢51人（児童生徒16人、保護者4人、少年文化館職員12人、指導員12人、学生カウンセラー5人、寄り添いスタッフ2人）とともに、一年間を締めくくり、新たな出発を励ます終了式となった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため学校関係者は招待せずに行った。児童生徒たちに、職員からメッセージカードと記念品を贈った。式場への出席が厳しい児童生徒は、隣室の美術工芸室で参加し受け取ることができた。児童生徒たちから指導員と学生へメッセージカードとともに、デコパージュした石鹸を贈り、児童生徒の感謝の気持ちを届けることができた。児童生徒たちのメッセージでは「少年文化館に来る回数が増えるほど、先生方や友だちに対して緊張がなくなってきました。」「学校の5分間休みのような時間がずっと続いているみたいで楽しかった。」「とても生意気であつかいにくかった自分に対して少年文化館の先生たちは、優しく話してくれたり、励ましてくれたりしながら見守ってくれました。」「今まで苦手なことはやらなかったり、最後までやりとげたことがなかったけど、行動しなければなにも変わらない、成長できないと自分の考えが変わり、落ち着いて進路のことを考えられ</p>

たと思います。」「新しい環境になっても、一緒にやってくれる人がいたら頑張れる。そうやって文化館で出会った仲間や先生たちに支えられてきました。これからも前を向いてやっていこう。」と自分を振り返り、前向きな思いや、感謝の気持ちのメッセージがいくつもあった。他にも楽しかったプログラム活動のようすを振り返った感想や、仲間と結びついた喜び、活動の中で積極的に変化していった自分のこと、今までの自分と今後の自分を見つめたことなどが書かれていた。それぞれの葛藤のようす、安心できる場所・人が見つけられた喜び、登校や進学への決意が綴られており、出席者の心に深く響いた。少年文化館で仲間や、指導員、学生カウンセラー、スタッフと出会うことで、時間はかかっても少しずつ成長する児童生徒たちの姿が感じられた。参加したみんなが気持ちを共有し、心温まる感動的な式に出席することで節目を確認した。児童生徒たちは仲間やスタッフとの別れを惜しみ、次のステップに向け、児童生徒たちへの大きな励みの機会となった。

(4) チャレンジ登校

- [ねらい] 社会的自立のはじめの一歩として登校援助を位置づける。
創造活動での援助が定着し、スタッフとの人間関係が成立したときに、学校でより開かれた人間関係の場やさまざまな行事を経験させる。
- [条件整備] 本人の意向を確認し、学校との連絡を密にして個に応じた受け入れ体制の配慮や働きかけを要請し、保護者の理解と協力を得ながら取り組んだ。
- [確認ポイント] ①場所：校内適応指導教室、保健室、相談室、教室、体育館、校長室など
②時間：放課後、授業中、早朝
③人：キーパーソンを誰にするか。校長、担任、養護教諭、不登校担当者など
④内容：健康診断登校、行事登校、別室登校、テスト登校など
- [事例] ・健康について考えようと提起し、健康診断登校をした。
・テスト登校（定期テストの受験を学校の別室で受ける）した。
・始業式、終業（修了）式、卒業式に出席した。
・体育大会の見学をするために登校した。
・修学旅行（日帰り体験行事）、林間学舎、合唱コンクール、学習発表会などの行事登校をした。
・興味のある授業に出席した。
・別室へ登校し、担任、その他の先生・職員とつながることができた。
・高校入試の願書を作成するために登校した。
- [成果] 進路のことに関心を持つことにより、テスト登校や、式などに参加するようになり、学校に対するイメージが変化する児童生徒も見られた。チャレンジ登校をする中で登校や学校に対する意識が変化することもあった。さまざまな行事に参加・見学することにより、学校への意識を持ち、先生・職員とつながることができた。また、学校との連携により、別室での活動内容や児童生徒のようすについての交流を行うことができた。

(5) ケース検討会・ケース報告会

- ・ケース検討会は保護者から相談を受けた児童生徒のうち、自主創造活動や訪問援助を受けているものを対象に実施した。今年度は、庄内少年文化館6回・11人、千里少年文化館2回・3人の児童生徒について検討した。今年度は千里少年文化館のケースも庄内少年文化館で行った。
- ・専門のアドバイザー（臨床心理士）の指導を受けながら、児童生徒の特徴・背景をより深く理解し、適切な指導・援助を行えるように実施した。
- ・初回相談後に援助形態の変更や緊急対応が必要なケースについては随時、スタッフ会議等で確認しながら進めていった。全ケースの課題と現状確認は月1回の定例ケース報告会で把握するようにした。
- ・検討・報告結果にもとづいて、児童生徒への援助、保護者への連絡や個人懇談、学校との連携・相談等が適切に行われるように努めた。

(6) 学校・関係機関との連携

1) 学校との連携

- ・援助や指導の経過の中で、個々の児童生徒の成長に応じて学校と連携し、再登校に向け、段階的な援助を行った。
- ・登館している児童生徒については、月毎に登館日数を学校に送付し、学校が児童生徒の少年文化館での活動状況を理解し、よりよく指導できるように配慮した。

2) 不登校支援研修

目 的 不登校児童生徒への対応等について、市教職員研修の一環として、教職員の資質の向上をめざして研修会を実施する。

第 1 回	<p>日 時 5月28日(木) 14時～16時</p> <p>会 場 豊中市教育センター</p> <p>研修会テーマ 「不登校児童生徒の支援をすすめるために ～学校と少年文化館との協働～」 (講演)</p> <p>講 師 大阪府チーフスクールカウンセラー／豊中市立少年文化館 アドバイザー</p> <p>参加者数 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止</p>
第 2 回	<p>日 時 7月30日(木) 14時～16時</p> <p>会 場 豊中市教育センター</p> <p>研修会テーマ 「子どもの不安症状の理解とその対策」 (講演)</p> <p>講 師 こども心身医療研究所 臨床心理士</p> <p>参加者数 59人</p>

3) 不登校担当者連絡会

①目的 各小中学校において設置されている「いじめ不登校対策委員会」をより活性化し、不登校および長期欠席傾向を示す児童生徒に対して、全教職員が組織として支援できるようなチーム支援体制の構築と小中学校間の取組みの段差を解消する目的で、平成20年度(2008年度)より「不登校担当者連絡会」を設置している。

②構成 各中学校不登校担当者、いじめ・不登校(長期欠席)・児童虐待対策連絡会議(児童生徒課生徒指導係が事務局を担当)で構成され、会長1人、副会長1人を置く。

③内容 今年度は年間5回実施。

第1回	開催日：5月28日（木） 会 場：豊中市教育センター 内 容：①本会の趣旨説明 ②会長及び副会長の選出 ③不登校児童生徒数等について ④月ごとの調査について ⑤少年文化館について
第2回	開催日：6月18日（木） 会 場：庄内少年文化館 内 容：班別協議・情報交流 「不登校生徒における各校の取組みとその課題について」
第3回	開催日：7月30日（木） 会 場：豊中市教育センター 内 容：不登校支援研修② 「子どもの不安症状の理解と対策」 講 師：こども心身医療研究所 臨床心理士
第4回	開催日：11月20日（金） 会 場：学校法人角川ドワンゴ学園N高等学校 内 容：視察 学校概要・施設見学
第5回	開催日：1月28日（木） 会 場：庄内少年文化館 内 容：①「不登校支援の手引き」、「福祉との連携ガイド」 ②情報交流「不登校児童における中学校への引継ぎについて」

(7) 啓発活動

○教育講演会

- ①目 的 子どもの健やかな成長を願い、子どもをめぐる課題について、市民・保護者・学校関係者・学生カウンセラーがともに考える。
- ②日 時 10月10日（土）14時～16時
- ③会 場 豊中市教育センター研修室1・2、視聴覚室
- ④内 容 演題「不登校を考える ～いじめの現場から～」
- ⑤講 師 大阪府教育委員会スクールロイヤー事業スーパーバイザー

⑥参加者数 36名

<庄内少年文化館>

○創造活動保護者全体懇談会

第 1 回	<p>目 的： 創造活動での現状を伝えるとともに子どもたちを育むために、周りの大人はどうしたらよいのか考え合う。</p> <p>日 時： 6月20日（土）10時～11時30分</p> <p>会 場： 青年の家いぶき 2階 研修室</p> <p>主な内容： ①挨拶 （館長） ②自己紹介 （創造スタッフと保護者） ③創造活動報告（創造スタッフ） ④講話 講師 少年文化館アドバイザー テーマ 「ともに子どもたちを育むために」～子どもに寄り添って～ ⑤案内 オンライン導入について （館長） ⑥アンケート記入</p> <p>参加者数： 12人</p>
第 2 回	<p>目 的： 創造活動での子どもの様子や家庭での子どもの様子、親の悩みなどについて意見交換し、今後の子どもへの対応や親の関わり方について学び合う。</p> <p>日 時： 11月7日（土）10時～12時</p> <p>会 場： 青年の家いぶき 2階 研修室</p> <p>主な内容： ①挨拶 （創造スタッフ） ②アイスブレイク（創造スタッフ） ③グループで意見交換 前半 [自己紹介・子どもの現状および変化] ④各グループのまとめ（創造スタッフ）とまとめ（少年文化館アドバイザー） ⑤グループで意見交換 後半 [ゲーム YouTube・生活リズム・進路について] ⑥各グループのまとめ（創造スタッフ）とまとめ（少年文化館アドバイザー） ⑦アンケート記入</p> <p>参加者数： 18人</p>
第 3 回	<p>目 的： 創造活動・家庭での子どものようすや保護者の悩みについての意見交換をし、今後の子どもへの対応や保護者の関わり方について学ぶ。また、援助のあり方の参考にする。</p> <p>日 時： 1月30日（土）10時～12時</p> <p>会 場： 青年に家いぶき 2階研修室</p> <p>主な内容： ①開会・自己紹介 （創造スタッフ） ②創造活動報告 （創造スタッフ） ③第1回、2回アンケート報告 （創造スタッフ） ④グループで意見交換（テーマ：生活リズム・ゲームについて子どもの自立・進路について） ⑤各グループのまとめ（創造スタッフ） ⑥講話 講師 少年文化館アドバイザー テーマ 「子どもを育む大人の関わり」～安心できる居場所作り～ ⑦アンケート記入</p> <p>参加者数： 27人</p>

○保護者懇談・担任懇談・継続相談・創造活動だより配布などの取組み

<保護者全体懇談>各学期に1回実施し、それぞれ12人、18人、27人の参加があった。1回目は新型コロナウイルス感染拡大防止のため講演会形式にし、これまでのケースや保護者向けのリラックス法の紹介をした。2回目は3つのグループに分かれ、ゲームや YouTube、生活リズム

ム、進路について話し合い、保護者間で共感し合えた。3回目はグループで話し合った後、それらをふまえ、すぐに答えが見つからない児童生徒たちの問題への大人の関わり方についての講話を聴いた。

<保護者個人懇談> 1学期末（7月15日～7月30日）と2学期末（11月17日～12月18日）には個人懇談を実施した。児童生徒の状況を伝え、家庭での変化のようすを聞いた。今後の援助等について確認しあった。

<担任懇談> 11月・12月児童生徒の担任や関係教職員と懇談した。新たな情報が得られたり、見方の違いを認識した後、共通理解が得られたり、連携して援助することに役立った。

<継続相談> 児童生徒への援助以外に、保護者との面談を継続的、あるいは必要に応じて行なった。親の不安や心配を受け止めることで、親が安定し、児童生徒の安定につながった。

<創造活動だより> 5月、7月、10月、12月、3月に創造活動だよりを発行した。時節に合わせたコラムと行事のようすを中心に載せた。児童生徒の家庭と所属の学校(担任)を含めて市内全小中学校に配布した。